

江津市校務DX計画

1. 江津市の校務DXの取り組み

江津市は、Microsoft Teams やスカイメニューを活用した児童生徒との連絡や学習支援、グループウェアソフトを活用した教職員間の情報共有や出退勤等の管理などにより押印やFAX送信の原則廃止を進めるとともに、保護者連絡用ツールを活用した出欠連絡や保護者への情報提供など校務の効率化を進めてきた。

また、令和6年度に教職員のパソコンを校務と学習を1台で行うことができるパソコンに更新し、多要素認証を取り入れるとともに、Webフィルタリングやデータの暗号化、EDRの導入などを進め、ゼロトラストセキュリティ環境の整備を行うとともに、サーバの更新とあわせクラウド化への変更を実施した。

併せて教職員の校務の効率化を図るため、校務支援システムの導入に向けて、浜田教育事務所管内の3市3町（浜田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町）で共同調達により統合型校務支援システムを令和6年1月に導入し、3市3町における児童生徒や教職員のデータ、子どもたちの支援や指導の記録などを、プライベートクラウドで安全に管理し、統合的な利用が可能となり作成する帳票を共有化することで校務の標準化と改善を図った。

校務支援システムへの新入生などの名簿データ入力に関しては、CSVデータを作成し取り込むことで、不必要な手入力作業しない取り組みを行っている。

これらにより、教職員の校務に係る時間の削減につながり、児童生徒に向き合う時間を確保することで教育の質の向上を図ることが可能となった。

今後の課題としては、導入したシステム等に慣れ、各種機能をフルに活用できるよう操作研修の実施やヘルプデスクの活用を促進していく必要がある。

2. 次世代校務デジタル化への課題

江津市は、令和6年に統合型校務支援システムを導入し、運用を開始しているが、更なる効率化を図るため、県が主導する校務支援システムの共同調達に向けて検討を進めていく必要がある。